【学校教育目標】

「自分とみんなのために」 心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成

【目指す児童像】 「 気づく子 学ぶ子 元気な子 」

我にのほとり



大村市立大村小学校 学校だより 第11号

令和7年10月16日発行 文責: 校長 堺 邦寿

★ みんなで がんばっています! ~ OOの秋 ~ ★

10月も中旬を迎え、朝夕はとても過ごしやすくなってきました。ようやく秋が近まってきた感じがします。秋という季節は、夏の暑さが和らぎ、過ごしやすくなることから、食欲の秋、実りの秋、読書の秋、スポーツの秋など、多くのことに取り組みやすい季節です。そこで、今、大村小学校では、次の3つの秋に重点的に取り組んでいます。

①「給食」の秋・・・「PKG」で残菜が大幅減少!

PKGとは、「パーフェクト・給食・ガイド」の略称で、本校給食担当職員の発案で作成されました。2学期から再度給食指導を徹底するための約束を子どもたちにわかりやすく整理したもの(右図)です。このPKGには、給食準備から片付けまでの流れが、タイムテーブルとして示されていて、子どもたちは毎日PKGを意識して給食準備から後片付けまでを行っています。このほかにも、給食準備の配置と児童の動き、給食係やリーダーの役割を明確にするなどして、食事の時間を確保するようにしてきました。この結果、残菜の量が随分減少してきました。これは、無理に食べさせるということではなく、自分が食べられる量を食べること、食事の時間を十分に確保することに努めてきた結果です。みんな本当によく頑張っています。



②「あいさつ」の秋・・・児童会中心で自主的に!

学校生活を自分たちの力でよくしていくために、代表委員会の活動があります。3年生以上の学級代表と企画委員会、各委員会の代表で構成され、学校生活をよりよくするための話し合いを行います。9月は「思いやりのあるあいさつができる大小になるための取組を考えよう」を議題として、全学級で話し合い(1、2年生の意見も)、その後、代表委員会で議論しました。その結果、①100点のあいさつ(自分から、1秒止まってお辞儀をして元気な声であいさつ:3-2の案)をしよう、100点あいさつをするための取組(あいさつぬり絵:6-2の案)に決定しました。この取組が始まってから、子どもたちのあいさつに対する意識が高まってきました。ご家庭でも気持ちの良い挨拶ができていたら、褒めてあげてください。

③「読書」の秋・・・現在の全校貸出冊数 28,117冊

今週14(火)から秋のブックハート月間が始まりました。初日の昼休みの後には、図書委員会による図書集会を開催し、図書クイズや新刊本の紹介、学年ごとに読書冊数が多い人ベスト3の紹介、本の読み聞かせを行いました。大村小学校の学年ごとの読破目標冊数は、1・2年生100冊、3・4年生90冊、5・6年生70冊としていて、すでにこの目標冊数をクリアした人もいます。全校の年間読破目標の50,000冊達成に向けて、これからもがんばってほしいと思います。ご家庭でも、子どもたちが読書をしている様子がありましたら、ぜひ賞賛の声かけをお願いします。

~みんなちがって みんないい (その6)~

昨年同様、今月から神経発達症(発達障害)について、症状ごとに少し詳しくお話ししていきます。今回は「限局性学習症(SLD/LD)」についてお話しします。内容は昨年と同じです。

「限局性学習症」より「LD」の方が聞き馴染みのある方が多いのではないでしょうか。「SLD」は「Specific Learning Disorder」の略で、世界共通の診断基準書であるDSM-5(アメリカ精神医学会診断マニュアル)に示されている診断名となります。

「SLD」は全般的な知的に遅れはないものの「文字の読み書き」「文の意味を理解する」「推論する」「計算する」「表や図を読み取る」などの学習能力の一部だけが極端に抜け落ちている状態を指します。

「SLD」で有名なのが、映画俳優のトム・クルーズです。映画「トップガン」や「ミッションインポッシブル」などをご覧になった方も多いのではないでしょうか。

彼がSLDであることは広く知られていて、彼自身もSLDであることを公表し、広く理解と支援を得るための活動を行っています。彼は文字の読み書きが苦手なタイプのSLDで、**読字障害** (ディスレクシア) と書字表出障害 (ディスグラフィア) の東方でなると言われます。文字がと手

(ディスレクシア) と書字表出障害 (ディスグラフィア) の両方であると言われます。文字が上手く読めないので、映画の台本はスタッフや家族に代読してもらったものを録音し、それを何度も聞きながらセリフを覚えています。現在はある程度、字も書けるようになったそうですが、デビュー当時は自分のサインもきれいに書けなかったようで、サインの一部が鏡文字 (左右逆転した文字) になったものもあったそうです。彼は幼少期、SLDの為にいじめにあったこともあり、それが原因で転校もしています。

SLDで有名な芸能人は他にもウーピー・コールドバーグやオーランド・ブルームなどのハリウッド俳優や、スティーブン・スピルバーグなどの映画監督など数多くいます。

SLDは前述の「読字障害」「書字表出障害」の 他にも、計算や数量が理解できない「**算数障害** (ディスカリキュア)」もあります。

学校の場でいくつか例を挙げてみます。

① ディスレクシア (読字障害) の場合

- ・計算はできるが、文章問題はできない
- 社会や理科のテストはできるのに国語のテストはできない
- 年齢不相応な漫画や童話の本しか読まないまたは眺めているだけ
- ・テレビ視聴やゲームは得意

② ディスグラフィア (書字表出障害) の場合

- ノートやテストの字が雑で、中には本人で さえも読めない字がある。
- ・ノートや連絡帳の書き写しに時間が掛かる
- ・作文で何を書いたら良いか分からず、書き 上げるまでに時間が掛かる。拗音や促音表 記の間違いが多い。

③ ディスカリキュア (算数障害) の場合

- ・簡単な四則計算に時間が掛かったり、間違 いが多かったりする
- ・九九がなかなか覚えられず、中高学年になっても言い間違える。
- ・図形問題や単位の変換で間違いが多く、量 の学習が苦手

上記はほんの一例ですが、思い当たることはありませんか?

SLDは医療機関での検査によって、正しく状態を把握することができます。

SLDの人は普段の生活からは全く困り感が感じられません。会話からも分かりにくく、他の人と変わらないので、本人さえも自覚が無いことがほとんどです。そのため、学習面における自己肯定感だけがとても低く、「自分は勉強が苦手で、さっぱりだったから」とか「自分は体を動かすことは得意だけど、ペーパーは・・」などの認識で自分を納得させている人が少なくありません。運転免許証が取れない人もいます。子どもの場合は、「やればできるのに・・・」や「学習ができないのは本人の努力不足」と捉えられやすく、中には「勉強できなくても生きていけるから大丈夫」と安易に考えてしまうことがあるため、本来の能力を発揮できないまま、進学や仕事など将来の選択をしてしまう人も多いのです。

SLDは根本的な改善は難しいのですが、個人の特性に合わせて軽減する方法を見つけていくことができます。どうすれば苦手さ困難さを軽減できるのか、どのような進路選択があるのかなど、健やかな成長のために今を大切にしてあげることが重要です。